

不登校の支援モデル

学校における不登校児童生徒の発見
早期発見のため、月に3日以上欠席する子どもに注目

校内での初期対応

学級・ホームルーム担任による家庭訪問

できる限り早く！

- ・家庭訪問の目的を明確にしておく
- ・事前に連絡をとっておく
- ・事後にも保護者に連絡をとる

情報の収集

できるだけ広く多面的に！

不登校対策チームの立ち上げ

学級担任（ホームルーム担任）、学年主任、養護教諭、生徒指導主事、学校教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー（SC）など

同時に

見立てをおこなう

対策チームを中心に、状況によってはSCなどの専門家も交えて

学校での状況

いじめ、友人関係、教職員との関係、学習状況、学校・学年の状況 等

子どもの生育歴

幼児期からの育ち

家庭にかかわる状況

現在の親子関係の状況、家庭環境の急激な変化の有無、家庭内の不和 等

現在の子どもの状態

情緒的な課題（抑うつ、不安、強い被害感、情緒不安定）
発達障害等の課題（PDDやLDなどの傾向）※
行動に表す傾向（非行、他者への攻撃）

※ PDD 広汎性発達障害
LD 学習障害

初期の対応（1～3ページ）

対応方針の決定と支援

学校で取り組む支援

- ★いじめなどの友人関係の問題の解決
- ★学習支援
- ★教職員との関係の構築
- ★別室登校などの弾力的措置

専門機関との連携による支援

- ★子どもの強い不安や情緒混乱の問題
- ★子どもの行動の問題
- ★発達の問題
- ★家庭の問題

教育研究所・生徒指導支援室・こども家庭相談センター・市町村教育センター・医療機関・民間の心理相談室・適応指導教室・フリースクールなど

子どもの状況により、
対応方針の見直し

子ども、家庭への支援

支援のポイント

- ★学校の立場ではなく、子どもや保護者の立場に立った共感的理解を心がける。
- ★不登校という状態を受け入れて、子どもや保護者をそのまま肯定する。(このままではダメだ、頑張りという言葉がけは、相手を不安にさせ、理解されないという思いを抱かせることの方が多くことに留意する。)
- ★保護者に教職員も一緒に事態を考えていく旨を伝え、情緒的混乱を収める。
- ★学級担任が中心となって、迅速に、専門機関との連携などの対応をする。
- ★学校での問題は、必ず学校で解決する。(友人関係、教職員との関係など)

子どもが支援者との関係を支えに変化し、少しずつ力を蓄える

支援のポイント

- ★あせらず、今何が進行しているかを、専門家等と連携して把握する。
- ★適応指導教室や相談機関と連携している場合は、適宜連絡をとり、子どもの状態を把握する。
- ★別室登校が可能な生徒は、別室を用意して柔軟な対応をする。
- ★子どもと関係ができてきている場合は、あせらず子どもが動き出すのを待つ。
- ★可能な限り家庭のことも話を聞き、保護者を支える。
- ★進路の問題がクローズアップされる時期の不登校は、進路情報の提供などを行う。

子どもが動きはじめる

学校の環境設定

- ★子どもが入りやすい学級づくり
- ★学習状況への配慮・支援

子どもへの働きかけ

- ★子どものペースに合わせた、無理の無いプラン設定
- ★安心できるよう、気持ちや行動の支援
- ★別室登校の提案
- ★学校行事への参加の勧め
- ★SC との面接の勧め

初期の対応(1〜3ページ)

中期の対応(3〜5ページ)

回復期の対応(5〜6ページ)